

## 1992年度 山本・正野論文賞候補者の推薦募集

日本気象学会の山本・正野論文賞は、(旧)山本賞(新人賞)の発展として1990年度に発足し、1992年度はその3回目になります。この賞は前2年間(1990年度及び91年度)に発表された気象学に関連する論文の中から、基礎研究・応用技術研究を問わず、新進(原則として35歳未満)の研究者・技術者による優秀な論文を選び顕彰するものです。論文公表の雑誌は国内・国外を問いません。

つきましては、この趣旨に沿う候補者(論文)を選考するために、下記により広く会員からの推薦を募りますので御協力をお願い申し上げます。

## 記

1. 推薦期限：1992年4月15日(水)

2. 宛先：〒100 東京都千代田区大手町 1-3-4

気象庁内、日本気象学会

山本・正野論文賞 候補者推薦委員会

3. 推薦書記入事項 (B5版横書)

- (a) 候補者所属氏名  
(b) 当該論文題目・雑誌名・号数・頁数  
(c) 推薦理由  
(d) 推薦者所属氏名 印

日本気象学会 山本・正野論文賞 候補者推薦委員会  
廣田 勇(担当理事)、浅野正二、高橋 勲、  
松田佳久、松野太郎、光田 寧

## 訂 正

巻 号	頁	位	誤	正
39. 1.	63	右5段	富士大学理学部	富山大学理学部

編集後記：1991年6月に今世紀最大といわれるピナトゥポ火山の噴火がおきてから半年以上過ぎました。国内における定常レーウィングンデ観測データからもその影響を読みとることができます。これらの影響は過去の観測データとの比較によって知ることができますが、これは40余年の日々のデータの蓄積があるからこそできるものです。

国内の高層気象観測ではミニコン使用による自動化が1986年から順次展開されてきていましたが、今年からはパソコン使用による新自動化が展開されることとなります。

いままでも天気図解析や数値予報用の客観解析等に使用するデータは観測後2時間以内には送られてきていましたが、長期保存用としての詳細データは自動化することによっていままでも以上に迅速に送られてくることとなりました。これにより、ピナトゥポ火山噴火の影響というよう

な、上空30kmあたりまでの大気現象はほぼリアルタイムで監視することができるようになりました。

さて、月一回開かれる編集委員会では、常により良い内容にすべく活発な討議が行われていますが、「天気」がますます楽しくなっていくよう、ご指摘やご意見等ございましたらお寄せくださるようお願いいたします。

(中村雅道)

本号の巻末に、日本気象学会入会申込書(個人用)を挿入してあります。これまで、「気象学会に入会したいが、どうすればよいのか?」という問い合わせが会員に寄せられた時に、「入会申込書が手元にあればすぐに応対できるのだが」、という会員の意見が事務局に寄せられております。この意見に応えるために、申込書を挿入致しましたので、ぜひご活用下さい。

(委員長)